

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(H31年度:計画作成主体:十日町市農業再生協議会)(新潟県)

取組の概要

対象品目 : えだまめ(産地面積70.0ha)
 主な取組主体 : 農業生産組織1者
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加
 基準(H30年度) 97千円/10a
 目標(R3年度) 107千円/10a
 導入施設等 : 整備事業(集出荷貯蔵施設(プレハブ型冷蔵庫))
 生産支援事業(機械リース
 (乗用管理機1台、中耕除草機1台、
 乗用枝豆収穫機1台等))

新潟県
 十日町市
 津南町(全域)



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

茶豆系品種へのこだわりや良食味が評価され、年々需要量が拡大しているが、急速な面積拡大に伴いほ場管理対応が遅れ、収量、品質の低下を招いている。
 今後も需要が増えることが見込まれており、産地の生産基盤の強化が急務である。
 このようなことから、現状以上に作付面積の拡大、高位均質化を図ることにより販売額の増加を目指す。

【産地の体質強化に向けた方策】

- ①作付面積拡大に伴う収量増加に対応するためにプレハブ型冷蔵庫の導入
- ②除草作業の徹底により雑草発生防止、倒伏防止により単位面積あたりの収量増加を図るために中耕除草機の導入
- ③作付規模拡大に応じた適期の収穫作業に対応するために乗用枝豆収穫機の導入

推進体制

農業生産組織

集出荷貯蔵施設の整備

- ・集出荷施設の処理能力向上により出荷量の増

機械リースの整備

- ・中耕除草機による高位均質化
- ・乗用枝豆収穫機による作付規模に応じた収穫作業実施

需要に応じた供給

実需者

十日町地域振興局 指導・助言・支援 十日町市

・栽培技術、鮮度保持技術指導

・補助事業推進、規模拡大支援

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・平成29年にJGAP第三者認証を取得
- ・GAPの農業管理手法を活用して適期な農場管理
- ・ICTを積極的に導入し、徹底した圃場管理の実施
- ・県・市単独事業により助成(20百万円)

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①機械化一貫体系により適期の管理作業が可能になり収量向上
- ②1日あたりの出荷可能量が増え、えだまめ需要のピーク時でも必要量に合わせて柔軟に対応が可能

【事業実施による間接効果】

- ①えだまめの高位均質化により、販売単価が増加
- ②出荷量の増量により新たな販売ルートを開拓し、経営体質を強化



販売額が59.6%増加
 (達成率555.6%)

目標値
 107千円/10a

134千円/10a

150千円/10a

155千円/10a

97千円/10a

H30
 (基準年)

H31

R2

R3
 (目標年)

えだまめ販売額の実績